

牢屋のおやつ3 ぱちぱち夏の保釈編

瘡蓋 今田きた

猛暑日の墓地にひとつも影がなく、こうしてあなたには皮膚がない

汗をかくのはみんないきものじゅくじゅくと水がしみだす手桶を下げて

敷石にワセリンを塗りたくるひとを産んだひとの墓に参っている

掻きこわれはじめた食卓のきゅうりは執拗に皮を剥かれてならび

雑草がじいじい揺らぐ 線香の煙を吸うと歯が痒くなる

遺伝だと言おうとしたらいつせいに首を振りだしはじめる柄杓

菜箸を逆さに詰めた花立がひまわりの真中に似ています

ゆるせないのにする念話ごとく湿潤液の匂いにもみれ

わるいわるい肌を真夏を臍の緒を和室をふたりでかきむしるだけ

かゆくないところへゆきたいです 振り向けば 墓石にあたらしい瘡蓋

合同作品

なみやすみの宿題

ゼラチンがどれだけあれば海ゼリー作って向こう岸に歩ける？

特売のチラシはちゃんと届けます色鉛筆のいかに乗って

からっぽなたびに額を押し付けて みるの 大雨の日の校庭

お～も～い～だ～し～は～じ～め～て～る～と～こ～なみなみと作文用紙を埋める作戦

赤色のシロップまいたげたの海に、こぼれることもしらない海に

海ゼリーのなかのマンゴーもうだれのことも島だとおもわないから

ぱさぱさの肌のくじらとすれ違う幻視 冷凍庫はからにする

理科室のちいさいこまごめピペットのめもりとめめんともりをまなんだ

氷よく噛んでください噛みながら落雷として泣いてください

わすれてもわすれなくてもいいからね海のたまごの自由研究

ouyade 夜片なぎ

うでの毛をひかりがしろくみせている死んでみゆやくかみさまになる

ありふれたショートケーキの戴冠として息をこめ毒をのせる

ouyade 夏は夏の恋人がほしいできればつめたい肌の

ウエディングボールを奪い去るようにつもろこの皮をむきます。

まごろみを火に破られてにんしんのようにふくらむ線香花火

ひからびたみみずを避ける 胎盤は真夏のようにわたしの牢屋

祝杯を かみさまだったいきものの水晶体の浮かんだゼリー

かみなのかけらは不妊にいいからと義母がキャベツと炒めている

人間と人魚の生殖方法をあなたは知ってしまっかな 虹

触れあえばぬるくなるのがいやだったバナナビーンズみたいなほころ

今田きた X (@imada_came)

つくば現代短歌会所属。世界地図をお風呂に貼りました。

夜片なぎ X (@azisai_nagi)

つくば現代短歌会所属。おでん粉を浴びたいです。